

石垣島・西表島合宿記

部全体の夏季合宿として、9月9日から13日まで石垣島に5日間滞在した。4泊5日ではあったが、実際にフィールドで活動したのは10日から12日の3日間であり、10日は石垣島、11、12日は西表島まで行き、班員5名で行動した。

1日目

車をレンタルして一番初めに向かった場所は、宮良川のヒルギ林であった。カーナビが示す道に入っても、ヒルギ林らしきものは見当たらず、生い茂る草に囲まれ車1台がようやく通れる道を轍に沿って進んだ。適当な場所に車を止め、外に出てみると、いかにも南国らしい雰囲気の木に変わった白い花がついているのを見つけた。ギンネム、またの名をギンゴウカンと言い、世界の侵略的外来種ワースト100の中に入っている要注意外来生物である。周囲の草原にはタチアワユキセンダングサも多く見られた。こちらも帰化種で、外来生物法にて要注意外来生物に指定されている。石垣でもそうだが、西表島に行ってもこの2つの植物はよく目にし、沖縄も本州同様に、帰化種によって生態系が侵されつつあることを実感する。道なりに進むと、赤い実をたくさんつけたゲットウを見つけた。よくみると花が咲いているものもあった。ゲットウは観葉植物としても有名で、花期は5月～7月とされていることが多いが、石垣島では9月でも咲いていた。南の島ではこのように花期があいまいになることは多いようで、一年中咲いているという植物も少なくない。さらに奥に進むと、シマツユクサが低木の林床の間にひっそりと咲いていた。本州で見られるツユクサとは異なり、やや淡い水色の花弁を持っている。周囲ではバショウ科の植物が雄花を咲かせていた。奥まで進んだが、結局、ヒルギ林らしきものは見られなかった。後からわかったのだが、宮良川のヒルギ林は宮良橋から眺めるものであったそうである。

次に向かったのは、石垣島中央に位置するバナナ公園である。公園内の自然植物園ではヤシ園や熱帯果樹園など南国ならではの木々が楽しめる。ヘゴやヒカゲヘゴ、ヤエヤマヤシなどが道沿いに並んで植えられていた。残念ながら花は咲かせていなかったが、セイシカもあった。公園内をしばらく歩いていると、道の畔の急斜面を上った先にふつうにみられる植物とはどこか雰囲気が異なる白い花を見つけた。うなだれるように咲くそれは、絶滅危惧IB類のトサカメオトランであった。開発や園芸採取などで急激に数を減らしている貴重な植物であるが、なぜこんなところにあるのであろうか。咲いていた場所は、普通に歩いているだけでは気づきにくく、近くで見ると急斜面に登らなければならないので、観賞用に植えてあるという風でもない。バナナ公園はバナナ岳という標高230mの山麓に造られているので、もともと自生していたものを施工

の際保護したのかもしれない。バナナ公園を去った後は、スカイラインや名蔵アンパルの遠浅を訪れたが、ヒルギ林が見られた以外は成果はなかった。メヒルギを観察したかったのだが、オヒルギに比べると少ないのか、まったく見つからなかった。ホテルに戻って1日目の活動は終了である。

2日目

2日目はフェリーで西表島まで行き活動した。上原港で車をレンタルした後、まず西表野生生物保護センターへ向かった。ひとしきり中を見学した後、その従業員にどこに行けばどんな植物が見られるかを尋ねる。西表で貴重な植物を見るには、観光化されているような場所以外では、道なき道を分け入って山を探索しなければならないらしい。山に入るには入山届が必要で、今回は自分を含めた班員の装備を考慮して断念した。また、大富林道でナリヤランやサクラランが見られることも教えてもらった。

野生生物保護センターを出発し、ここから一番近いサキシマスオウノキ群落を目指す。国の天然記念物にも指定されており、板状の根“板根”が特徴的である。ここではマングローブ植物のオヒルギも見ることができた。残念ながら、メヒルギの花を見つけることはできなかった。このあともいくつか近場のマングローブ環境を訪れる。本州ではまず見られない環境なので、じっくり観察した。

ランが見られるという大富林道に向かう。大富林道は西表縦断のための道路として開発されていたが、特別天然記念物のイリオモテヤマネコが発見されたため工事は中断された。それが林道として残っているのだ。車の底を削りそうになりながらも、遊歩道入口から第1ゲート前まで行き、車を停める。第2ゲートまでは車で行けるが、どんな植物を見逃すかわからないので歩くことにした。歩き始めてすぐにオレンジの実がなっているイリオモテクマタケランを発見する。ゲットウと科も属も同じなだけあって、雰囲気はそっくりであるが、こちらの果実はつやがある。花期ではなかったため花は咲いていなかった。開発により減少している植物（沖縄県 RDB では準絶滅危惧種）のひとつであるが、大富林道沿いに数多く見られた。林縁の樹木には準絶滅危惧のシダ植物、シマオオタニワタリが着生していた。西表にはオオタニワタリ、シマオオタニワタリ、ヤエヤマオオタニワタリの3種が自生するが、これらは孢子のう群で区別できる。しかし、そういった貴重な植物が見られる中、タチアワユキセンダングサやフトボナガボソウなどの帰化種もところどころに存在していた。しばらく進むと、合宿が始まってから初めて見るシソ科の植物があった。絶滅危惧種のヤエヤマスズコウジュかとも思ったが、後で同定してみるとヤンバルツルハッカという植物であった。

一旦主な道から離れて、傾斜のある森の中を探索するルートに入る。低木が多く、林床は暗い印象であった。湿り気があり、シンエダウチホングウシダなどのシダ植物が岩から生えている姿をよく見た。花を咲かせている植物はまったくなかった。そのルートを抜けた先には、ナリヤランの自生地があり、開けた日当たりのいい草原にカトレアのような美しい花を何輪も咲かせていた。盗掘や開発により減少しているナリヤランは、絶滅危惧 I B 類に指定されている。これほど巨大な花を咲かせるランを見たのは初めてであった。このあと、雨雲が頭上に広がり、雨に降られそうだったので車まで戻り、近場の浜辺へ向かった。浜辺ではハマゴウやハマオモトが見れた以外は特に収穫はなかった。この日の活動はここまでである。

3 日目

実質最終日の 3 日目も西表島で活動をした。沖縄県最大の川、浦内川に向かい、ウタラ炭鉱史跡を目指して川沿いを歩く。朝に雨が降ったのか、それとも朝露か、全体的に湿度の高いコースであった。駐車場から歩いてすぐの入り口近くにはサンダンカが咲いており、たくさんのヤエヤマカラスアゲハがその蜜を吸いに来ていた。実を幹に直接つけるギランイヌビワや、アカメイヌビワが目立つ。オキナワキョウチクトウ、イボタクサギ等花を咲かせる木本は点々と見られたが、草本はあまりない。

ウタラ炭鉱史跡まで着いた後、引き返して昨日あまり見ることはできなかった大富林道へ車で行く。ナリヤランを再び観賞し、第 2 ゲートから徒歩でさらに奥まで進む。サクラランを期待していたのだが、巨大な葉のクワズイモやリュウキュウイナモリ、キダチキンバイが新たに確認できた以外は成果はなかった。

石垣島

オヒルギ *Bruguiera gymnorhiza* (*Bruguiera gymnorhiza*) ヒルギ科オヒルギ属

ギランイヌビワ *Ficus variegata* var. *sycomoides* クワ科イチジク属

ギンネム *Leucaena leucocephala* マメ科マメ亜科ギンゴウカン属

ゲットウ *Alpinia zerumbet* ショウガ科ハナミョウガ属

コウトウシラン *Spathoglottis plicata* ラン科コウトウシラン属

サンダンカ *Ixora chinensis* アカネ科サンダンカ属

シマツユクサ *Commelina diffusa* ツユクサ科ツユクサ属

タチアワユキセンダングサ *Bidens pilosa* var. *radiata* キク科センダングサ属

トサカメオトラン *Geodorum densiflorum* ラン科メオトラン属

※コウトウシランは別行動をしていた班が発見

西表島

アカメイヌビワ *Ficus benguetensis* クワ科イチジク属

イボタクサギ *Clerodendrum inerme* クマツヅラ科クサギ属

オオムラサキシキブ (白花) *Callicarpa japonica* var. *luxurians* クマツヅラ科ムラサキシキブ属

オヒルギ *Bruguiera gymnorhiza* (*Bruguiera gymnorhiza*) ヒルギ科オヒルギ属

カショウクズマメ (実) *Mucuna membranacea* マメ科トビカズラ属

キダチキンバイ *Ludwigia octovalvis* アカバナ科チョウジタデ属

ギランイヌビワ *Ficus variegata* var. *sycomoides* クワ科イチジク属

クワズイモ *Alocasia odora* サトイモ科クワズイモ属

サンダンカ *Ixora chinensis* アカネ科サンダンカ属

シマオオタニワタリ *Asplenium nidus* チャセンシダ科チャセンシダ属

チリメンナガボソウ *Stachytarpheta dichotoma* クマツヅラ科ナガボソウ属

ナリヤラン *Arundina graminifolia* ラン科ナリヤラン属

ハマセンナ *Ormocarpum cochinchinense* マメ科ハマセンナ属

フトボナガボソウ *Stachytarpheta jamaicensis* クマツヅラ科ナガボソウ属

ミフクラギ *Cerbera manghas* キョウチクトウ科ミフクラギ属

ヤンバルツルハッカ *Leucas chinensis* シソ科ツルハッカ属

リュウキュウイナモリ *Ophiorrhiza kuroiuae* アカネ科サツマイナモリ属